

中高年訓練生の学習困難点に関する研究

職業訓練大学校

職業訓練研究センター

(研究担当者) 戸 田 勝 也
七 尾 和 之

序 文

現在、中高年求職者のうち能開訓練を受ける者はたかだか数パーセントに止まる。中高年になって失業したとき「この年になっていまさら勉強するのはしんどい」と考える人が少なくないことに加えて、訓練校の側でも、若年者に比べていろいろ手間がかかりそうにみえる中高年者を敬遠する傾向がなかったとはいえない。

しかし、能開訓練受講者のうち45歳以上層の占める比率は、昭和48-53年の5年間に22%から35%に高まった。今後も本格的高齢化社会へ近づくに従い、その比率はさらに高まるものと思われるが、われわれとしてはこれを積極的に高めてゆくことを要請されている。

そのために解明してゆかなければならない問題が少なくない。加齢によって人間の学習能力がどのように変化するかという基本的問題さえ漸く研究が緒についた段階である。ここでとりあげた研究も加齢に伴う学習特性の変化を把握しようとする一つの試みに過ぎない。現に訓練を受けている中高年者が、どのような場面で、どのような学習困難を感じており、その原因が何であるかがわかれば、それを克服する道も探せるのではないかと考えている。

研究を進める過程で、中高年者の学習意欲は若年層に決して劣らないことが実感されたが、今後は中高年者の優れた特性とみられる総合判断力、問題発見・構成能力が学習過程でどのようにいかされるかというような視点から分析を深めてゆく必要がある。

本研究は、中高年プロジェクト研究の一環として訓練適応研究室戸田研究員が七尾研究員の協力を得てとりまとめた調査研究の成果である。研究視点、内容等について御高批を頂ければ幸いである。

昭和56年1月

基礎研究部長

泉 輝 孝

調 査 研 究 資 料

発 行 昭 和 56年 2 月 21日

発 行 者 職 業 訓 練 大 学 校

職業訓練研究センター

所 長 宗 像 元 介

職業訓練研究センター

神奈川県相模原市相原1960
TEL (0427) 61-9911